



奇岩遊仙郷

那谷寺の一番の特徴といえば、海底噴火によって出来た

奇岩遊仙郷きがんゆうせんきやうであると思います

那谷寺を抱くようにしてそびえる白山は往古の昔、その気高い山容から、清らかで優麗な女神の住む山として神聖視され、信仰の対象となっていました。奈良時代の初め、その白き山に登り、白山の神が十一面観音と同じ神であることを感得したのが、「越の大徳(たいとこ)」とよばれ、多くの人々の崇敬を集めた名僧・泰澄法師です。

法師はさらに養老元年(717年)、靈夢に現れた千手観音の姿を彫って岩窟内に安置しました。法師は「自生山 岩屋寺」と名付け、寺は法師を慕う人々や白山修験者たちによって栄えました。

これが那谷寺開創の由来と伝えられます。

「那谷寺」の由来は、平安時代中期に花山法皇が行幸されたとき、法皇は「私が求めている観音靈場三十三カ所はすべてこの山にある」と言われ、西国三十三カ所の第1番・那智山の「那」と、第33番・谷汲山の「谷」をとって、「那谷寺」と改めたことに由来します。

那谷寺はずっと昔、縄文時代の神まつりの靈地であった処です。

縄文人は狩猟によって自分の命を支えてきました。いわば他の命を奪うことによって我が命にかえてきたので、他の生物への感謝の気持や命を奪うことへの恐れ、汚れの念を持ち続けていたと思います。

やがてそれは自然への畏敬の念や、人の生きることへの罪の意識として表れます。

そして古代人は人の魂は輪廻転生すると信じており、魂はあの世とこの世を往復すると信じてきました。

特に加賀の国では、清らかで白き神々の住む白山に死後の魂が登って清められ

地上に回帰する、という信仰が生まれました。

又、那谷寺の地には岩山と洞窟がたくさんあって、その洞窟は母親の胎内のようで、

生まれる間に魂が清められる場所、魂のゆりかごの場所と信じていました。

それならば生きている間に自分の罪を洗い清めるため洞窟に入って祈り、表へ出ることによって清められると思い
ウレキヨマルためのイワヤ内で神まつりをしたのです。ところがそのイワヤ洞窟は白山の方角に向かっていたので、

白山を遥拝する場所としてイワヤ本殿ができたのです。

那谷寺の境内は奇岩遊仙境を中心とした、山水画のような美しい景色です。人々は今度生まれるとしたら、
この様な景色とともに過ごしたいとの思いからの自然智の信仰も生まれ、ますます境内をより美しく保つことになりました。

今も、那谷寺の中心は自然であり、その信仰は自然の摂理（自然智）が中心であり、

四季折々の風景を大切にしたいと心掛けています。

(『松尾芭蕉奥の細道 北陸三十三所観音霊場 那谷寺を知る』より <http://www.natadera.com/shiru/index.html>)

那谷寺のことが、とてもわかりやすく、興味深く表されていると感じます

私にとっては、様々な意味で、“故郷”を感じる場所であり

紅葉が美しいこの季節、久しぶりに訪れました (^)/

今回撮った写真を見て感じたのは、水の輝きが尋常ではない？という事です





養老の瀧を訪れた時に見た、“黄金色の光の雫のような水”の光景が浮かびます

中心から螺旋を描いて広がっていく、根源の、黄金の光の渦…

その、喜び躍るような姿が水であり、この世界であるかのような
光と水が融合した、生命の煌めき、躍動—、限りなく清らかで美しい、光の庭——

その昔、観音浄土・補陀落山^{ふだらくせん}を、この世に現出したいという、
花山法皇や、前田利常公の思いそのまま、目の前に映し出されているようです

(*^^*)





開創1300年！山門に掲げられた5色の幕が、光輝いています



全ての法会がここで行われるという“金堂^{けおうてん}華王殿”

高さ7.8mもある、木曾檜で出来た、美しい“十一面千手観音”が

すぐ正面に聳え立ち、出迎えてくれます

ムクムク〜？！ 観音様と等身大となった私の中心から

希望と喜びが千手となって弾け出し、宇宙に広がっていく感じがしました！



堂内は撮影禁止です
とても美しいお姿なので、webよりお借りました
<(_)>



華王殿の傍にある“^{ふもんかく}晋門閣”、紅葉に彩られ艶やかです
祖母の生家が移築されたもので、現在は宝物館となっています
仏様の置かれている部屋で、お茶をいただきました
私は見た事もなかった家ですが、茶の間で寛いでいるかのような安らぎを感じました
祖母、父と、もうこの館の話を、聞く事もなくなってしまいました
1300年もの間、沢山の人の手によって、大切に引き継がれてきた、この那谷寺の地に
こうしてあるご縁に感謝し、歴史の重みと、その中に生きる人の思いを
自身の宝物としていきたいと思えます (***)



参道を奥へとむかって進んでいくと“奇岩遊仙郷”が見えてきます

太古の昔、海底噴火によって現れた岩が
水の浸食作用によって、出来上がったものとの事です
岩窟の中には、チヨコンと仏様の姿があり、岩が笑い顔のようにも観えます
以前は石段を自由に登ることが出来たのですが、
現在は、景観の保護や安全等の配慮によって、立ち入り禁止です
手すりもなく、ちょっとスリリングな遊園地気分
仏様のそば近くまで行くことができた過去を思い出し、少し淋しく感じました
“遊仙郷”というネーミングがピッタリだったと、今になって思う私です
(*^^*)

奇岩遊仙郷を左手にみながら進んでいくと、本殿の“大悲閣”があります



大悲閣(本殿) (国指定重要文化財)

観世音菩薩の慈眼視衆生の
大慈悲心の御誓願により、大悲閣といいます。
本殿岩窟前の一犬岩壁に寄りて建てられ
四棟舞台造り、四方欄間浮彫りで、
鹿、鳳凰、鶴、松、竹、梅、橘、紅葉等花鳥を配す。
唐門は本殿前の岩窟入口に建てられています。
本殿は岩窟内に構築され、中に厨子あり、
ともに支那及び南洋材をもつてつくられています。
内に那谷寺御本尊千手観世音菩薩を安置してあります。

本殿は岩窟内に構築され、

中には本尊の十一面千手観音が安置されています

“いわや胎内くぐり”によって、“ウマレキヨマル”を体感する場所と言われます

現在は、那谷寺の奥之院“生雲”でしか行われていない

神道火祭り(仏教・道教・神道を一つとした日本古来の祈りの儀式)の
ご祈禱を受けることができます

祈りは、火祭りの煙とともに天へのぼり

“白山の神々”に抱かれ

さらにその奥にある

宇宙世界の曼陀羅の神仏たちにも通じ、守られる、どの事です

生雲は、那谷寺と白山を結ぶ線上にある“役行山”の頂にあり、

その延長上には、木曾御嶽山・富士山が存在するそうです

地上の山々、そして大宇宙につながる暗い岩窟の奥で

3本のローソクを立て、祈りを捧げました

誰もが幸せに生きることの出来る

新しい地球にとっての

根源の光の灯台でありますように——

(*^*)

本殿が岩屋なので、外に出る感じはなく、そのまま進んでいくと

小さいながら風格溢れる“三重塔”が見えてきます

少し窮屈そうにお座り(笑)の大日如来様に、感謝のご挨拶^^

三重塔(国指定重要文化財)

小塔ですが、三層共扇垂木を用い、
四方の扉をはじめ壁面唐獅子の二十の行態や
菊花の彫刻は美しい。
内に鎌倉時代、那谷寺金堂にお祀りしてあった
大日如来を安置してあります。



赤い紅葉が、目に鮮やかです



奇岩遊仙郷を見下ろす、展望台へと上ってきました
一番上には鎮守堂があり、“白山妙理大権現”が祀られています



“神”や“仏”はわかりますが、“大権現”って？というのが正直なところで
今一度調べてみると、「権」とは、“臨時の”“仮の”という意味で、日本の神々を、
仏教の仏や菩薩が仮の姿で現れたものとする“本地垂迹思想”による神号」とあります

那谷寺には隣接して、岩宮白山神社があり、
御祭神は、“菊理姫神”(白山神社総本山 白山比咩神社御祭神)です
那谷寺御本尊“十一面千手観音菩薩”＝“仏”と、

“菊理姫神”＝“神”の間にあるのが

“白山妙理大権現”で、仏界と神界をつないでいる？

寺内の一番高いところから見渡し、すべてをククリ結んでいる。。。

そのように考えると、頭の中は、すっきり！まさに妙理、大権現です！

あらゆるすべては、宇宙の根源、“一なる至高の光”から生まれている

ここではそれら全てが、根源の光のもとで、美しく共存している

那谷寺は、明治の廃仏毀釈を免れた、貴重な神仏習合の寺と言われます
神仏を区別する事のない、自然智(人に生来備わっている優れた智慧)を大切にする

那谷寺の魅力が、より一層わかった気がします

(*^^*)



天国、極楽、補陀落山。。。
この景色を見ただけで
何もいらぬ——
そんな気がしてきます(*^^*)





石山の石より白し 秋の風

奥の細道で有名な“芭蕉句碑”を通り、“若宮白山神社”へと向かいました



数年前に訪れたときは、
社殿後方の窓から降り注ぐ、太陽の光を一杯に浴びて

キラキラと輝く“御神境”(菊理姫)が見え

その、清らかさと美しさに、ドキドキしたことを覚えています



鳥居の向こうは、まったく違う世界のような？

不思議なインパクトがあります

わあ、眩しい！！



前が見えないまま携帯をかまえると
すぐ後ろから、女性の話し声が聞こえてきます

太陽が真正面にある
この光に向かって、真っ直ぐに進みなさい！！
ということね^^

。。。 OK! ^^v
私は背中に、『そうね！』と書きました

社殿は“UFO”？！

“御神鏡”＝“白山菊理姫神” 銀河を駆け巡る！！かも？



社殿の裏手にまわると
木々の間から見える太陽の光は、真っ白で
すべては、この白い光から生まれ、本当は、それ以外、何もない——
白山は、“魂の故郷”、そう感じました



地球、太陽系、銀河、宇宙——
無限に広がっているかのような、壮大な宇宙空間

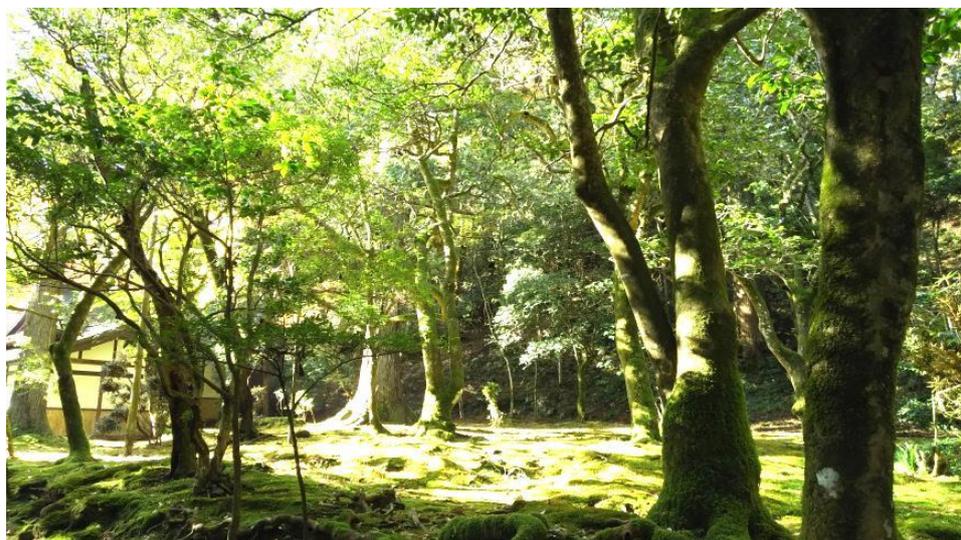
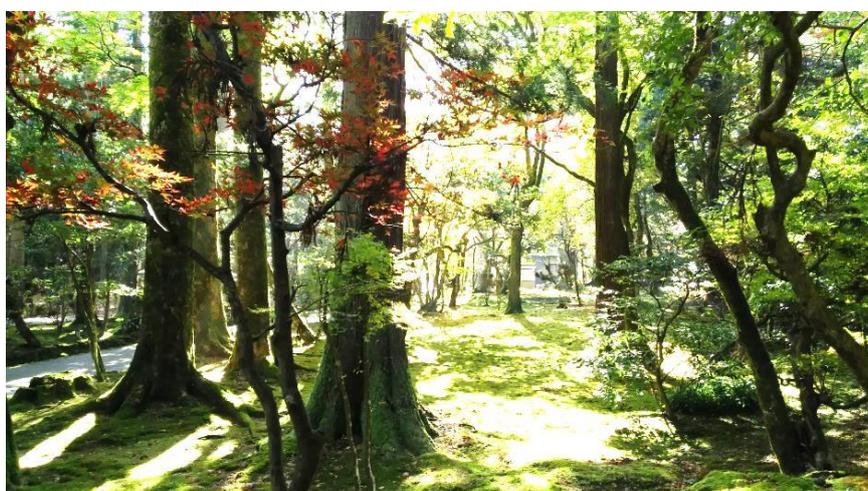
ビックバン、人類誕生、平成(という)時代、そして“NMC創生”——
連面と続くかのように見える、時の流れ

これら膨大と感ずる“時・空間”の、ほんの“一コマ”に過ぎないかのような
“今ここ”に、すべてがあり、“今ここ”以外には、何も存在しない

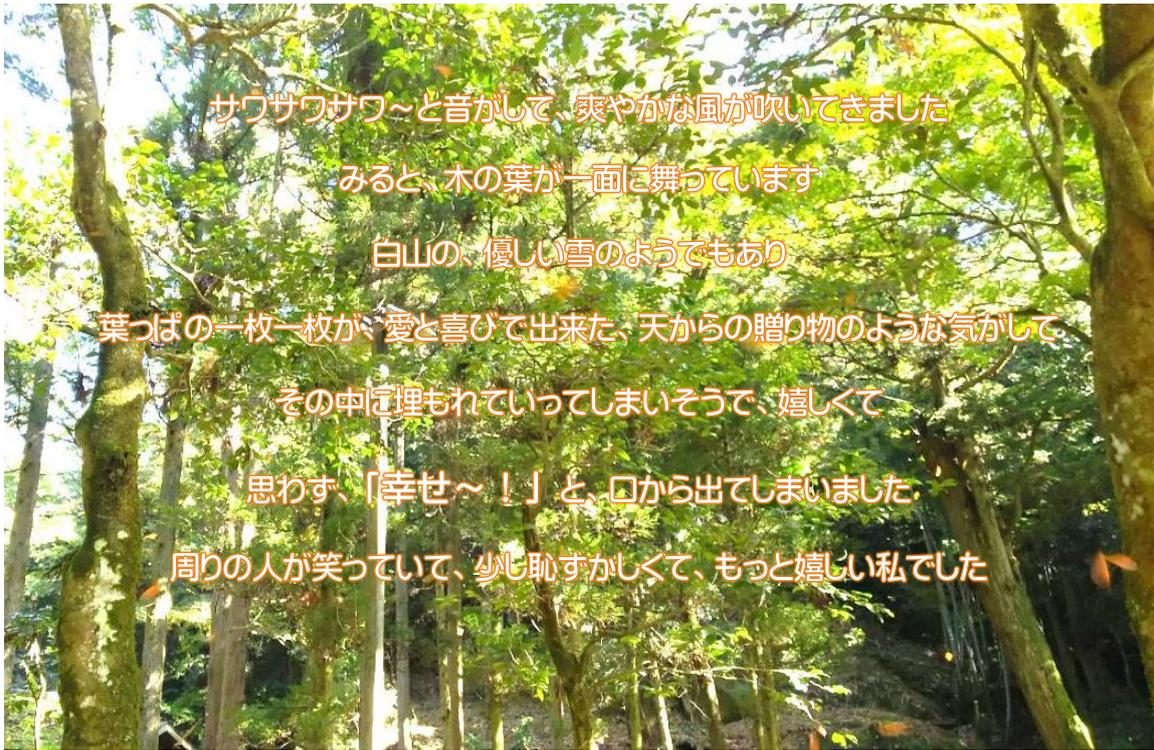
白山菊理姫が、銀河宇宙の果てから、縄文の昔から
そう、私に伝えてくれている気がします

“今ここ”
＝“根源の究極の愛と光”から
全てがは(ま)り

そうでない(根源の愛と光でない)ものは
私の宇宙には、どこにも存在成し得ない！と



“光”と“水”と“土”が織りなす、豊かな日本の四季——
三位一体の力が、すべての命を育てている
この大地に生かされてあることに感謝し、目の前にある美しい木々のように
大自然の一部として、全身全霊で、誇らしく、輝いていられたら
とても素敵なことだと思います



サワサワサワ~と音がして、爽やかな風が吹いてきました

みると、木の葉が一面に舞っています

白山の、優しい雪のようでもあり

葉っぱの一枚一枚が、愛と喜びで出来た、天からの贈り物のような気がして

その中を埋もれていってしまいそうで、嬉しくて

思わず、「幸せ~！」と、口から出てしまいました。

周りの人が笑っていて、少し恥ずかしくて、もっと嬉しい私でした

那谷寺には
こんな微笑ましい光景もあります♡^^



ハート型のドウダンツツジ



弘法大師(空海)像

2017.11.14 善美 rumines